

暑かった夏も終わり、スポーツの秋、食欲の秋などの良いシーズンを迎えます。〇〇の秋と〇〇には色々な言葉が入ります。私は妻に先立たれていまして〇〇が少なくなっています。まあ、観光といれて一人で各地に行ってみたいです。栩野

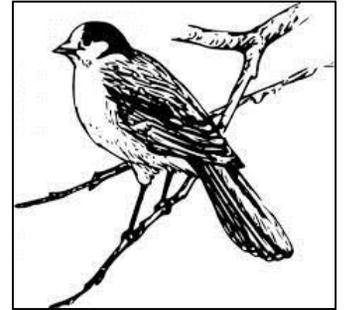
MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

## 「唇に歌を、心に太陽を」

弊社のお客様で社内報を発刊されており、その中で社員さんが「唇に歌を、心に太陽を」というフレーズを書いておられ、それにビビッと感じました。即座に思い浮かべたのは右下の「歌を忘れたカナリア」という唱歌です。歌を忘れたカナリアは、もうカナリアではないので「後ろの山に捨てましょうか」とか「背戸の小藪に埋めましょうか」、「柳の鞭でぶちましょか」と厳しい言葉が続いているのです。しかし、最後に「象牙の舟に銀のかい、月夜の海に浮かべれば、忘れた歌を歌い出す」と居場所を適切に作ってやれば、元に戻ると締めくくっているのです。

私は、歌を「一番商品」と置き換えてみたのです。自分の一番商品を見失っている方が結構おられます。中には、自社の悪口を言う方もいらっしゃるのです。これって、聞いていると「それで、あなたはよく勤めていらっしゃるね」と言って上げたくなります。さらに、これが経営者の方なら尚更です。ある会合でこの話をした時に若い経営者の方が「そう言えば、社員の不足ばかりを言っていた」と感想をもらされて、これから良い点を見つめて行きたい」と語られた事がありました。

この方のように、自社の悪い点を「歌」のように口にしていたら貧乏神しか寄って来ないと思います。やはり、カナリアのように「自社の自慢」を口にしていての方が笑顔にもなれるので福の神様が近寄って来てくれると思うのです。「笑顔になれる」という事は、心も温かくなれるので「心に太陽を」という事に繋がって行くのです。同じ事は社員に言えます。会社の不備な点ばかりを見て、そればかりを唱える方がいらっしゃいますが、少しは視点を変えて満足している部分にも言及して欲しい



「歌を忘れたカナリア」  
歌を忘はアリナカたれ後ろの山に  
棄かよしまて、えいえい、かはれそ  
うそいわ。  
歌を忘はアリナカたれ背戸の小藪  
に埋(い)かよしまけ、えいえい、そ  
めせまりなはれ。  
歌を忘はアリナカたれ柳の鞭ぶで  
かよしまち、えいえい、わかはれそ  
うそい。  
歌を忘はアリナカたれ象牙の舟に  
銀いかの、月夜の海に浮かべればか、  
忘たれ歌を思い出す。  
(詞：西条八十)

## 「聞く」を実践して相互の心中に「居場所」をつくる

と思います。しかし、これは簡単には変わらないです。やはり、人の気持ちを変えるのは難しいです。

最後の「象牙の舟に銀のかい」という居場所を作ってあげる事が大切と西条八十さんはメたのです。上司や周囲の方々から欠点ばかりを責められる方がいらっしゃいますが、一度、責められると何をしても認めてもらえない傾向になってしまいます。他人というのは一度レッテルを貼るとなかなか貼り換えてくれないものです。そういう関係が続くと折角の人材も「やる気」を失って行くばかりです。こういう現象の中で、ある方は「まず、耳を貸そう」と問題になっている方と対話するようになったのです。対話するとお互いの心中に変化が起きて関係性がよくなり、社員の方の行動が見る見るうちに変化が出たのです。

この方は、「社員の話を聞くだけ」とおっしゃっていましたが、双方の間のスキマに冷たい風が吹いていたのですが、徐々に、相互に相手を思いやる気持ちが醸成されて、結果的には相互の心中に存在感が大きくなったのです。「唇に歌を」と言うばかりでなく、「聞く」という事でも相互の心に温かいものが生まれたのです。まさに、「心に太陽を」というのが両方に生まれたのです。

今やICTの時代で、多くの方はメールなどでコミュニケーションをしています。書き言葉では「表情」や「空気」が分からないと思います。私は昭和人間の代表のような者ですが、現代の何事もメールという時流にはなかなかついていけない面があります。SNSでも「炎上」という現象が騒がれていますが、書き言葉の難しい一面が引き起こしていると思います。最近では、飲みニケーションという事も死語化しているようですが、companyという単語の語源がcom(一緒に)+pany(パンを食べる)であるのは、「同じ釜の飯を食べる」という日本古来からの言葉に繋がっています。もちろん、会話の中で「歌」(明るい話題)を唱えること、そして、飲むや食べるを通して人間的な付き合いをする事が相互の関係性を深めるのです。肝に銘じたいです。

## ワンポイント・アドバイス

中小企業家同友会の所属支部で昼会をやって見ました。参加者がお弁当を頂いて、その後、私がスピーチしてから感想を頂いたのです。初参加の方もいらっしゃったのですが、その場に溶け込んで頂いたようで本音に近い話をして下さいました。世話役の方が、この昼会は、いつもより皆が気持ちよく話せたとおっしゃり継続するとの事でした。食べるも重要です。

